令和６年度　病害虫防除技術情報　第４号

令　和　６　年　８　月　７　日
大分県農林水産研究指導センター
農　　業　　研　　究　　部

トマトキバガの発生が増加していますので防除を行いましょう

本県で実施しているトマトキバガのフェロモントラップで、７月下半期において１地点当たりの誘殺数が増加しており、昨年よりも１か月半ほど早い多誘殺となっています。また、県振興局調べでは、トマト（ミニトマト含む）の栽培施設で葉あるいは果実の被害が確認されており、今後の被害拡大が懸念されます。一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで確実に防除を行ってください。なお、露地栽培のナスや家庭菜園のトマトでも被害の発生が心配されますので注意しましょう。

１　発生状況

１）フェロモントラップ18か所におけるトマトキバガ雄の１か所あたり誘殺数は、７月下半期の調査で14.4頭（前年：0.7頭）と多く、前年の９月上半期と下半期の誘殺数とほぼ同じで、前年と比較すると１か月半ほど早い多誘殺となっている（図）。

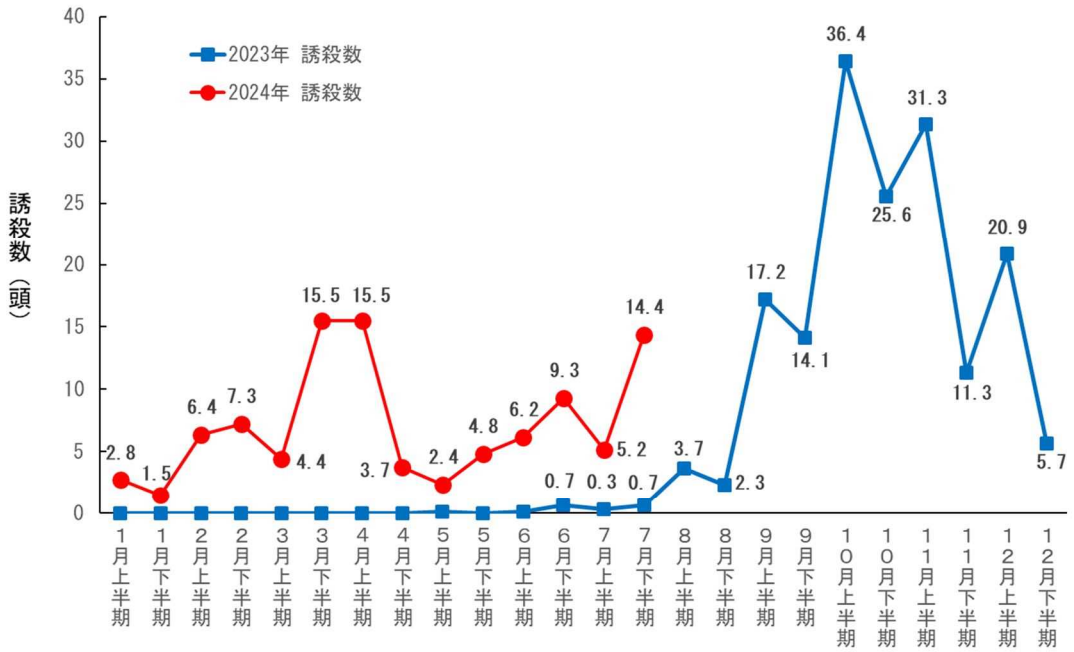

図　トマトキバガのフェロモントラップによる1地点あたり誘殺数（2023～2024年）

２）県振興局が調査した結果、トマト及びミニトマトの栽培施設で葉あるいは果実の被害が確認されており、前年の被害確認（10月31日）よりもかなり早い。

２　防除対策

１）トマトとミニトマトにおいて、トマトキバガに対する登録農薬は別添表１のとおりである。薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRAC コードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。

２）一斉防除の効果が高いので、産地の防除暦等を活用して地域ぐるみで防除を行う。

３）圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

４）被害葉や被害果は圃場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに速やかに適切に処分する。

３　その他

トマトキバガ幼虫による被害葉は、ハモグリバエ幼虫による被害葉に似ているので、別添の「トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い」を参考にする。

なお、トマトとミニトマト以外の農作物にトマトキバガが発生した場合には登録農薬がないので、管轄の県振興局生産流通部に相談する。

病害虫対策チームホームページアドレス

https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/

トマト葉におけるトマトキバガ幼虫とハモグリバエ幼虫の食害痕の違い

【大分県農林水産研究指導センター農業研究部 原図】

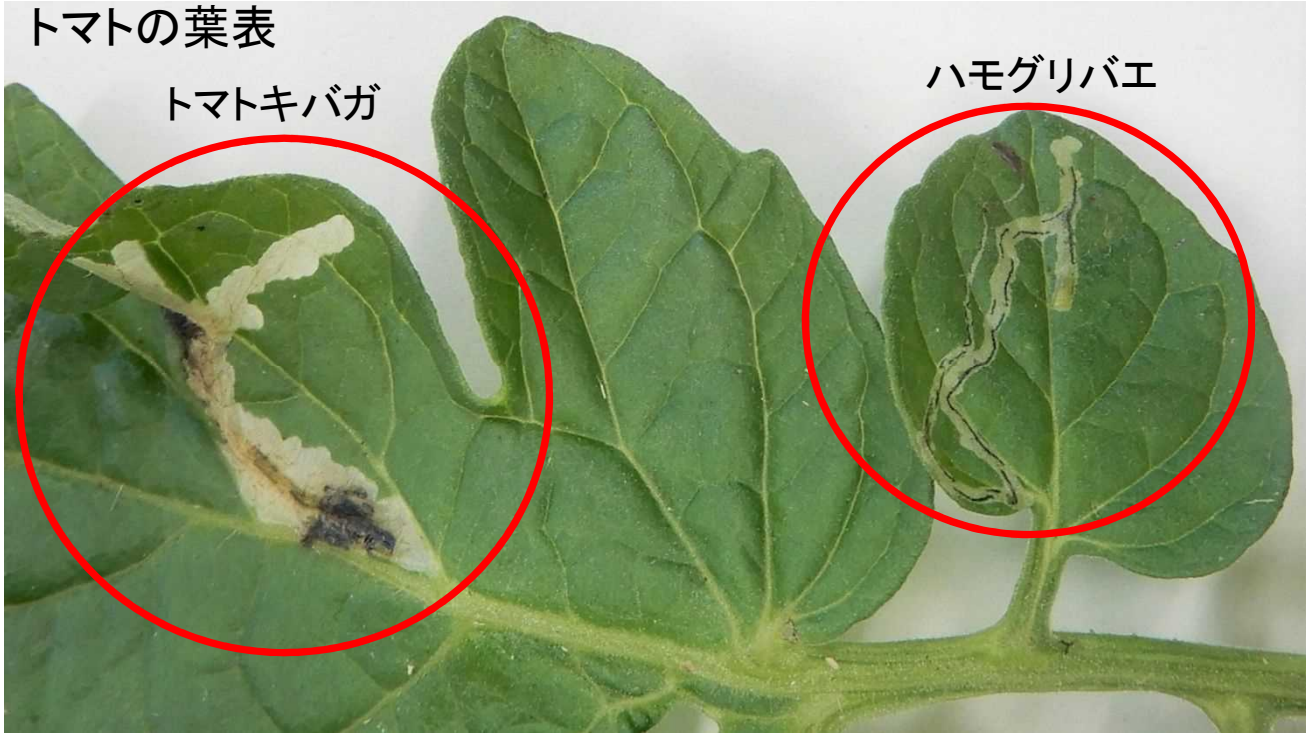

図１　左側：トマトキバガの食害（孔道の中で食害し、巣に戻って糞（下の方の黒い部分）をする）
　　右側：ハモグリバエの食害（食入直後は食害痕が細く、前進しながら食害し糞が線状となる）

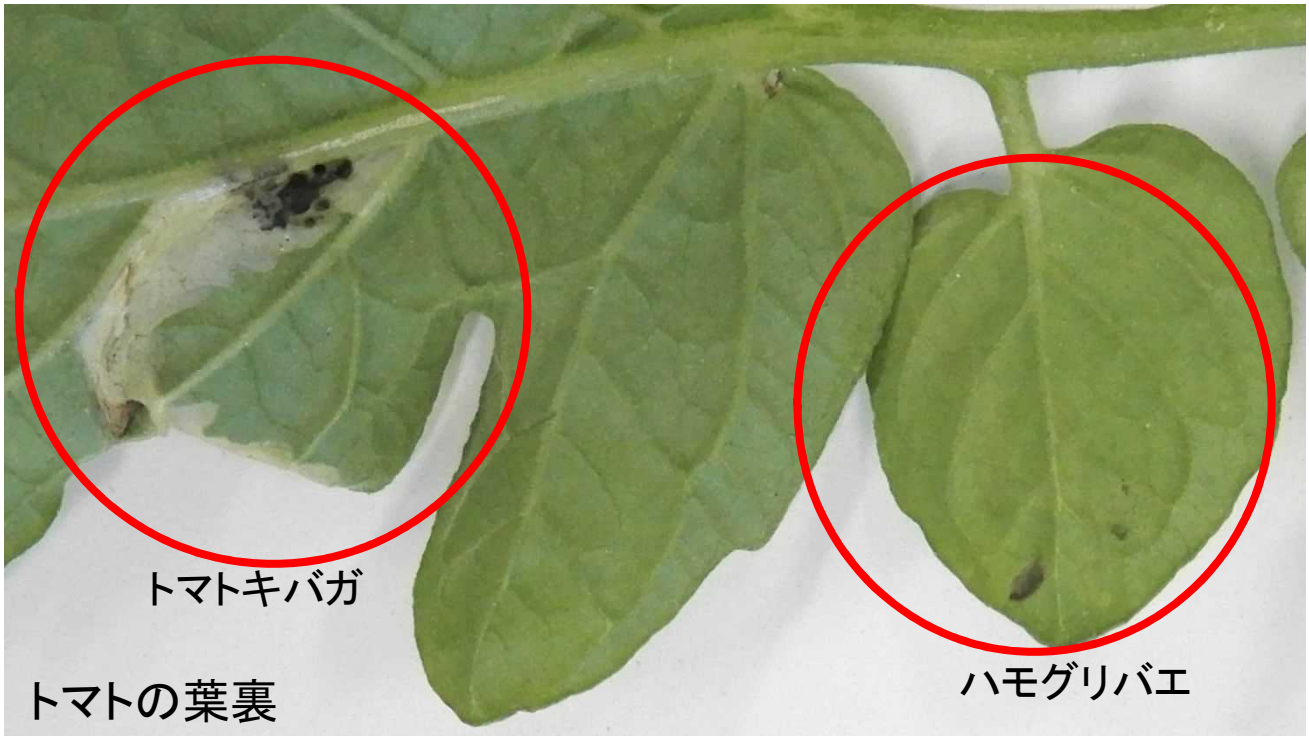

図２　左側：トマトキバガの食害（葉裏も食害痕が透けて確認できる）
　　右側：ハモグリバエの食害（葉裏は食害痕が確認できない）

表１　トマトキバガ登録農薬（2024年8月1日現在）

作物名（登録有無）		IRAC コード	農薬名（商品名）	一　般　名（成分名）	使用方法	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数
トマト	ミニトマト							
○	○	5	ダブルシューターＳＥ	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	5	ディアナＳＣ	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	○	5	ラディアントＳＣ	スピネトラム水和剤	散布	2500～5000倍	収穫前日まで	
○	○	6	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	5回以内
○	×	6	アグリメック	アバメクチン乳剤	散布	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	11A	エスマルクＤＦ	ＢＴ水和剤	散布	1000倍	発生初期　但し、収穫前日まで	－
○	○	13	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	×	22A	トルネードエースＤＦ	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	合計2回以内
○	×	22A	ファイントリムＤＦ	インドキサカルブ水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	
○	○	22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	28	ベリマークＳＣ	シアントラニリプロール水和剤	灌注	400株当り25ml	育苗期後半～定植当日	合計1回以内
○	○	28	プリロッソ粒剤	シアントラニリプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	プリロッソ粒剤オメガ	シアントラニリプロール粒剤	株元散布	2g/株	育苗期後半～定植時	
○	○	28	ベネビアＯＤ	シアントラニリプロール水和剤	散布	2000倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	28	ヨーバルフロアブル	テトラニリプロール水和剤	散布	2500倍	収穫前日まで	3回以内
○	○	30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	散布	2000倍	収穫前日まで	2回以内
○	○	UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	散布	1000倍	収穫前日まで	2回以内